

令和元年7月1日
気 象 庁

「気候変動監視レポート2018」を公表しました

2018年の日本と世界における異常気象及び気候・海洋・大気環境についての解析結果を、「気候変動監視レポート2018」として公表しました。

「気候変動監視レポート」は、社会・経済活動に影響を及ぼす気候変動に関して、我が国と世界の気候・海洋・大気環境の観測及び監視結果に基づいた最新の科学的な情報・知見をまとめた年次報告で、1996年より刊行しています。

今般、2018年の状況を取りまとめた「気候変動監視レポート2018」を公表しました。本レポートは、トピックスと3つの章で構成され、各章テーマの最新情報を掲載しております。主な掲載内容は別紙をご覧ください。

また、本レポートの全文は以下のURLからご覧いただけます。

掲載URL：<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/monitor/index.html>

問合せ先：地球環境・海洋部 地球環境業務課 担当 原田・田中
電話 03-3212-8341（内線 4225, 5168）

気候変動監視レポート 2018 の主な内容

<トピックス>

I : 「平成 30 年 7 月豪雨」 及び 2018 年夏の記録的高温

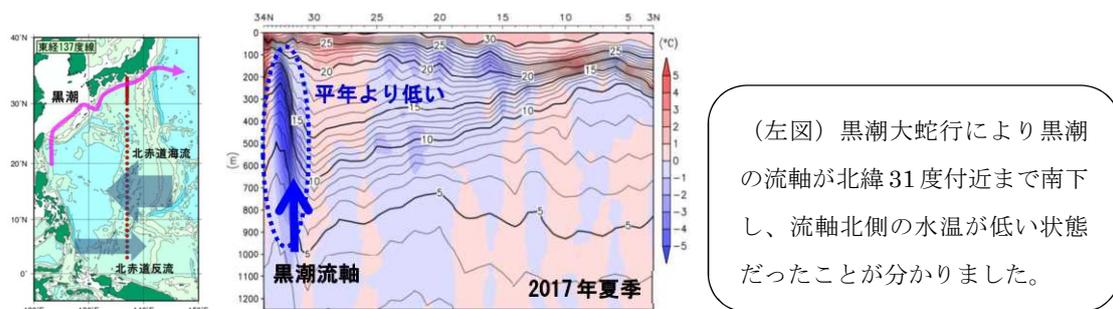
- ・ 6 月 28 日～7 月 8 日にかけて西日本から東海地方を中心に大雨が続き、全国の降水量の総和は、1982 年以降の豪雨災害時の降水量の中で最も多い値となりました。
- ・ 夏の平均気温は東日本で統計開始以降第 1 位の高温となり、7 月 23 日には、熊谷（埼玉県）で日最高気温 41.1 度を記録して歴代全国 1 位となりました。

II : 南極オゾンホール の回復傾向

- ・ 2000 年以降、オゾンホールの最大面積は統計的に有意な縮小傾向を示しています。

III : 東経 137 度に沿った海洋の長期解析値の提供を開始

- ・ 海洋気象観測船により 50 年以上観測を継続している、東経 137 度に沿った海洋の長期解析値の提供を開始しました。



図：東経 137 度の測点図と 2017 年夏の水温解析値の平年偏差（平年値：1981～2010 年夏の平均値）

<第 1 章 2018 年の気候>

世界各地で発生した異常気象や、日本の季節別の天候の特徴、それらの現象の要因となった大気と海洋の状態についてまとめています。日本では冬（2 月頃）に全国的な低温、夏（6～8 月）には記録的な高温となり、台風第 21 号や第 24 号の接近・通過の際は各地で暴風や高潮が発生しました。

<第 2 章 気候変動>

気温や降水量、海面水温、海氷面積等の長期的な変動についてまとめています。日本の年平均気温は 100 年あたり 1.21 度の割合で上昇しています。降水量について変化傾向はみられないものの、大雨や短時間強雨の発生頻度は増加しています。

<第 3 章 地球環境の変動>

大気と海洋の温室効果ガスやオゾン層、日本における黄砂や日射量の変動についてまとめています。二酸化炭素濃度は大気・海洋ともに長期的に増加しています。